

大和工業株式会社

2020年度3月期 第2四半期決算説明会 主な質疑応答（要約）

Q1. 持分法適用会社の米国と中東について、状況を解説ください。

A1. 全体の流れとして、持分法の米国も中東も収益は昨年に比べ落ちています。米国は、収益は出ていますが昨年が非常に良かったのでその反動が出ています。販売トン数は減少、競合他社の価格攻勢に対抗しマーケットシェアを維持する為に、何回か販売価格を調整、スクラップ価格低下により相殺されてはいますが、マージンも若干低下してきています。中東は、昨年業績が回復したのはひとえに鉄鉱石価格の下落、スクラップ価格の上昇で、DRI とビレット販売の収益貢献が大きかったことにあります。今年は逆の状況で、それら中間材の販売トン数は減少し、収益が落ち込んでいるため非常に厳しい状況になっています。

Q2. 創立75周年で、ミッション、バリュー、ビジョンを策定されたが、実質的に変わったところがありますか？

A2. 採用活動を中心に知名度向上の必要性を感じ、一昨年ぐらい前から、従来取り組んでいなかった様々な活動を行ってきていましたが、今回、ブランディング・プロジェクトを立ち上げ、その一環としてメッセージに統一感を持たせることにしました。その為、実質的に変えているのではなく、会社としてどうあるべきか、より明確なメッセージを出すために、従来あったミッションをベースとして、そのエッセンスを取り出し更に分かりやすく表現したのが今回のミッション、バリュー、ビジョンです。HP も更新しておりますので、ご一読いただけますと幸いです。

Q3. 新規事業に関して。

A3. 今後の大和工業の成長の源泉は海外にあります。特にタイのサイアム・ヤマト・スチールの人材と、彼らの地域市場に関する知見を活用しつつ、連携しながら取り組んでいます。その意味では一番親和性が高いのは東南アジアになると考えています。

なお、新規事業については全て相手もあり、守秘義務もございますので、公表できる状況になれば遅滞なく明らかにさせて頂くことといたします。

以上

【注意事項】

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載されている業績見通しや将来の予測などに関する記述は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、その達成を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因により、これらの予想数値と異なる場合があります。
